ディケンズ・フェロウシップ日本支部 ニューズレター

2026 年 10 月 31 日配信

1. 2026 年度秋季臨時大会実施の報告

2026 年 10 月 17 日（土）にディケンズ・フェロウシップ日本支部の令和 8 年度秋季臨時大会が開かれました。中央大学茗荷谷キャンパスを会場と致しました。秋の総会が春の季節の開催に移った 2023 年以来しばらくぶりで、この季節にフェロウシップの会員が集い、参加者は 30 名あまりを数えました。

催しの内容としましては、プログラムに見るとおり、二つの研究発表を聞くことができました。杉田貴瑞氏の研究発表「『クリスマス・キャロル』の大正期翻訳についての一考察」では、同作の日本での紹介の歴史を出版史の中に辿ることで、その翻案が翻訳に移るまでを追うもので、精緻な調査に基づきながら、今現在の我々の同作理解まで地続きなものとして続く日本での受容の変遷を見せてくれるものでありました。また、松本靖彦氏の研究発表「片思いに殉ずる男たち ―シドニー・カートンとセブルス・スネイプ」では、『二都物語』と「ハリー・ポッター」シリーズに共通性を見る考察で、自己犠牲ということの分析を踏まえながら、人物造型の根幹にある人物が抱える想いというところまで下りてゆく研究で、会場からも「実に文学的な研究」と言う声も聞かれたとおり、技巧的になるにつれて忘れられがちでもある、文学研究の関心の一つに立ち返らせてくれる内容であったと言うことができようかと思います。以上のご発表は、吉田朱美氏による、実に手際のよい司会によって進行し、参加者のみなさんとの活発な意見交換を含め、実に充実した時間となりましたことをご報告いたします。

2. 役員の改選のお知らせ

2026 年度総会（2026 年 6 月 20 日開催）での決定を受けて、新役員が以下の通り選出され、2026 年 10 月より役員の任に就いております。

新役員
（任期: 2026 年 10 月より 2029 年 9 月までの 3 年間）
支部長: 宮丸裕二
副支部長: 三宅敦子［2 期目留任］
理事: 猪熊恵子（編集担当）、橋野朋子、長谷川雅世（財務担当）［2 期目留任］
監事: 田中孝信［2 期目留任］

3. 『年報』編集委員会の改選のお知らせ

上記の役員の改選とあわせ、支部長による指名を受けて編集委員長が決定し、編集委員長による指名を受けて編集委員長が決定しております。来年度発行の『年報』第 50 号の編集から担当をすることになります。

2027 年より（任期の定めの規程はなし）
編集長／編集作業: 猪熊恵子［留任］
編集委員: 新井潤美［留任］、市川千恵子［留任］、井原慶一郎

4. 新たなメンバーシップ制度の導入について

ディケンズ・フェロウシップ日本支部の会員制度の種別を見直し、2026 年 10 月より新たな制度を導入します。新制度では本部誌の *The Dickensian* の購読の有無を選択することができます。

旧メンバーシップ制度:
（すべての会員に本部誌 *The Dickensian* が送付されます）

一般会員: 年会費 8,000 円
学生会員: 年会費 6,000 円
学部生会員: 年会費 3,000 円

新メンバーシップ制度:

一般会員: 年会費 8,000 円
一般会員（本部誌購読なし）: 年会費 5,000 円

学生会員: 年会費 6,000 円
学生会員（本部誌購読なし）: 年会費 5,000 円

ディケンズ・フェロウシップ本部から *The Dickensian* という学会誌が年 3 回送付されますが、「本部誌講読なし」を選ばれますとその送付はありません。また、日本支部『年報』はすべての種類の会員に送付されます。

既存のフェロウシップ会員も、次回の会費お支払い（2026 年の年末ごろ）から新たに選択をすることができます。

5. 2027 年度春季総会の予定

次回の春季総会を、木島菜菜子氏のお世話により、以下の通りの開催を予定しています。

日程: 2027 年 6 月 5 日（土）
場所: 同志社女子大学 今出川キャンパス

現在のところ、金山亮太氏によるご講演と、センセイション小説に関するシンポジウムの企画を準備しております。

また、研究発表を希望される方は、随時募集をしておりますので、ご希望を宮丸までお寄せ下さい。

6. 第 3 回 19 世紀イギリス文学合同研究会の開催予定

第 3 回 19 世紀イギリス文学合同研究会の次回開催準備は日本ギャスケル協会の担当になっており、以下の通り開催されます。

日程: 2027 年 10 月 2 日（土） 午後
場所: 立正大学 品川キャンパス

各学会の代表者による研究発表および合同でのシンポジウムが企画されています。シンポジウムのテーマは「19 世紀の文学とプリント・カルチャー」となっています。研究発表の希望者を募集しておりますので、希望がありましたら宮丸までお寄せください。

同日午前の時間には、同会場にて、日本ギャスケル協会の単独学会が開かれますが、ディケンズ・フェロウシップ日本支部の会員もそちらに参加することができるそうです。

7. 国際学会の日程と準備の進捗のお知らせ

2028 年には日本支部がホストを務めるかたちで Dickens Fellowship 121st Annual Conference 2028 を開催の予定で準備を進めております。現在のところ日程と会場が以下の通り決定しております。日本支部会員のみなさんもぜひ奮ってご参加頂けるべく日程を確保していただければ幸いです。

日程: 2028 年 9 月 4 日（月）〜9 月 10 日（日）
（4 日は到着日で 10 日は出発日なので実質的には 5 日〜9 日の開催）
会場: 中央大学茗荷谷キャンパス、近隣ホテル、ほか

また以下の準備チームで進めております。

主任: 宮丸裕二
副主任: 新井潤美、猪熊恵子、佐取愛香（進行管理）
メンバー: 香山はるの、熊谷めぐみ、杉田貴瑞、三宅敦子、渡部智也、

ちなみに、2027 年はオランダの the Haarlem Branch の主催で、ユトレヒトにて 2027 年 7 月 6 日（火）〜7 月 9 日（金）の日程で開催されます。リンクはこちら。こちらについても日本支部からもぜひ可能な方はご参加ください。

7. SNS について

SNS が一部始動しております。広く関心を集めるよう、どうぞみなさんフォローと拡散のほどご協力願います。

X（旧 twitter）のアカウント: @dickens_f_jp

ひきつづき他の媒体でも展開をしていく予定です。お気づきの点がありましたら、みなさんぜひご意見をお寄せください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部長
宮丸 裕二